

登録コード	UAJ03500	開講年度	2026				
授業題目	刑事法学					担当教員	濱田 新
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・法学, 2 4 UAカリ・総人社・法学, 2 3 UAカリ・総人社・法学, 2 2 UAカリ・総人社・法学						
	【法学】法学分野の高度な知識を身につけ、法を解釈適用できる能力を有する。					刑法学分野の高度な知識を身につけ、法を解釈適用できるようになる。	
(2)授業の概要	学部における刑法に関する基本的理解を前提に、刑法総論・各論における最新の論点について考察する。関連する判例・裁判例を取り上げ、現在の刑事実務の状況と、課題について整理する。 遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したりリアルタイムオンライン授業または講義録画の配信とします。ZoomミーティングのURLは、eALPSまたはメールにて事前にお知らせします。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：因果関係論 第3回：正当防衛論 第4回：錯誤論 第5回：被害者の同意 第6回：過失犯 第7回：緊急避難 第8回：間接正犯論 第9回：不作為犯論 第10回：共犯論(1)判例紹介 第11回：共犯論(2)課題検討 第12回：生命に対する罪 第13回：身体に対する罪 第14回：財産に対する罪 期末試験の有無 なし レポート課題の時期や提出期限等については初回ガイダンス又はeALPSにおいて適宜周知する。						
(4)成績評価の方法	学期末のレポート（100％）により評価する。						
(5)成績評価の基準	授業で示した基本的説明を理解できていれば、「水準にある」。判例・通説の立場を詳細に論述できていれば「やや上にある」。現在の刑事実務の課題も含めて示すことができているならば「かなり上にある」。さらに現在の課題を解決する際の自説の論拠が教員を感心させるレベルにあれば、「卓越している」。						
(6)事前事後学習の内容	ガイダンスで指定する文献を読んでから、授業に臨むこと。						
(7)履修上の注意	前提知識として、刑法に関する基本的理解が必要である。						
(8)質問,相談への対応	授業終了後に受け付ける。						
【教科書】	授業内で指定する。						
【参考書】	適宜指定する。						